

チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No.	タイトル	自治体名
	-（事務局用）	良好なサードプレイスの立ち上げと運営	玉名市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	開放的な空間で人々が繋がる		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	たまな放課後地域創造クラブ		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数（公開）	5名		
代表者（公開）	石津 純子		
メンバー（公開）	本田 乃愛 亀丸 翼 荒木 建一郎 森川 竜典		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

人と人を繋ぐ！新たな生き方をデザインする。

<この課題解決のためのアイデアが具体的に実行される場面を想定してください。そこで・・・>

<「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

【開放的な空間で人々が繋がる】

オルデンバーグが提唱する「サードプレイス」の具体例は、喫茶店や居酒屋という空間でした。しかし、そこで偶発的な繋がりや生み出される、常連さんがいると倦厭してしまうという危惧がありました。そこで私たちは、開放的な（公共的）空間で、人々が繋がれる仕組みを作り、それをそれぞれの小さなコミュニティ（＝サードプレイス）へ参加をいざなう仕組みを提案します。

1. つなぎ作戦

幼児を連れて親が周囲の人々と繋がる場として、よく公園デビューという言葉を使います。この出会いと結びつきの場を増やせないかというのが、私たちの課題です。

公共スペースは、人々が思い思いに時間を過ごせますが、人々が繋がったりすることはまれです。一方で、人々が共に活動すると、施設が必要となってきます。これらをミックスする必要があると考えました。そこでまず①公共空間の楽しい使い方を提示し公共スペースで人々が出合う機会をつくり、さらに②具体的なコミュニケーションの場を創り、③たくさんの団体のレイヤーが街を彩るようにします。

【①パブリックを面白く使い倒す、人と出会うまちあるき】

まるで公園デビューをするように、同じ志向の人々が会って、語らう場所が必要であると思われます。そこで、オープンハウスに注目しました。オープンハウスとは、1992年にロンドンのオープン・シティという非営利団体が始めた「まちびらき」のイベントで、通常非公開の建築物等を見て回るイベントです。このオープンハウスは、景観や建築物を見て回ることで地域を認知し、そこにある何かを楽しむことができる良い接点になるのではないかと考えました。具体的には、エリアを指定し、まちあるきをしながら、多くのコミュニティに触れる機会を創ります。さらに、妄想が大切です。周辺の空き家・古民家の使い方妄想を促すことで、団体へのコミットメントをつくることができます。

【②イキイキとしている人たちに会おう仕組みづくり】

通常のイベントでは、飲食店だけというのがよくありますが、例えば街角や木陰に本を読むスペースがあったり、空き家に子育て支援のスペースがあったり、子どもが安全に遊べるようなスペースがあったりと、イキイキとして活動できる場を創ります。そんな場所で、人々の活動に触れる機会を創ります。活動披露ができる団体は活動披露（ミニ講演会や実演会など）し、出来ない団体は、チラシや、SNSへのアクセスが可能なツールを配布します。公共空間で行う堅苦しくない、異業種交流会のようなそんな感じです。

街の面白さは、人々の多様ないきいきとした活動なんだということを感じてもらうことで、玉名市のいろんな所が「何か居心地のよい空間（サードプレイス）」になるだというメッセージを出していきたいと思います。

【③多重的な市民活動をデザインする～with コロナの時代に～】

新型コロナウイルス感染症は、密集・密接・密閉を避け、フィジカルディスタンスが推奨されました。そのことによって、人々は対面式のコミュニケーションを避け、対話の機会を失い、様々な弊害（健康）や経済的なものも含め新たな課題に直面しています。しかしながら、人々が地域を認知し、さらに人々の繋がりを守り、創っていくことが、地域での暮らしを豊かにすると思います。さらに、人々がなんとなく自分もやってみたいと思っていることを共有することで、「人々のやってみよう」に繋げ、「小さな団体をたくさん創る」ことを目標にしています。

この小さな団体が、私たちが考えるサードプレイスです。

例えば、ドイツにはフェラインと呼ばれる団体（組合、協会）が、たくさんあり、それが民主的・自律的な市民社会を創っていると聞きます。一人が持つ興味範囲は限られても、いろんな団体が活動している街は楽しいと思います。自分でも、地域と関係をもってやってみようと気持ちが、街を居心地のよい空間できると思います。

2. コミュニティスペース（＝サードプレイス）の立ち上げと運営

では具体的に小さな団体をたくさんつくり、運営しなければならいのでしょうか。そこで具体的な例として私たちは、耕作放棄地と空き家に着目しました。私たちは、古民家と耕作放棄地を再生しコミュニティスペース（＝サードプレイス）を運営します。コミュニティスペースの運営は、地域の伝統を伝えられるように様々な方々に参画していただく予定です。再生した農地では、農業体験イベントや教育機関の体験学習に活用してもらったり、古民家では収穫した農作物等を活用・加工し、カフェ運営したり、都会で販売したりすることで、私たちの活動のPRや収益化を目指したりする予定です。

あと、当初の問題である、歩いて楽しい街にしていくために、このノウハウを広げたいと思っています。つまり、一つの団体では、居心地のよい空間にはならないからです。たとえば、玉名市には高校が5校、大学が1校あります。しかしながら、学生が学校や家以外で、勉強できる所が皆無です。こうした、学生らが、自由に勉強したり、他校生や大学生との接点ができたりと面白いのではないのでしょうか。

2. アイデアの説明 (公開)

(2) アイデアの理由 (公開)

(2) アイデアの理由 (公開)

このアイデアを提案する理由について、それを**サポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明**してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・実験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由 (なぜ) を書いていきます>

<先の (1) で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」これをやりたいのかの思いを上記のデータを示しつつ書いていきます>

【海外のサードプレイスは使えない】

誰にとっても居心地のよい空間であるのだろうか？ 海外のサードプレイス（カフェ、バル、パブ）では、私たちにあってカフェは値段が高いし、居酒屋はうるさいし、確かに楽しいところではあるけれど、気軽に安価に集えるところではないなということでした。そこで、人々が気軽に集える場所を創るならばどんなところがよいのだろうか。どんなことをすれば、人々のつながりができきるのだろうかというのが、私たちのテーマになりました。

【人々の繋がりへの阻害要因】

私たちがしたいのは「人との繋がり」を増やしたり、拡大したりすることです。しかし、玉名市人口ビジョンによると 2000 年と 2015 年の比較をすると、市の人口は 6,269 人減少。世帯当たりの人員も、0.43 人減少しています。一方で、1 人暮らしが世帯数は約 1.4 倍に増えており、世帯数も 1,385 世帯増えています。これは、人々の孤立に繋がっていると思われる。人々が分断され、人口が少なくなると、それまで出来ていたこともできなくなる可能性があります。人との繋がりを維持することがことさら重要になっていると思います。

【コロナ禍での繋がり】

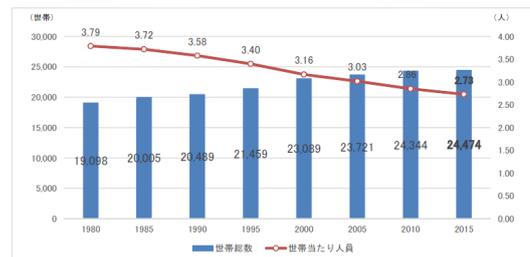
さらに、新型コロナウイルス感染症防止のために、ソーシャルディスタンスが図られ 3 密（密閉、密接、密集）が避けられると共に、それまでの対面での会話が難しくなりました。令和 2 年 6 月 11 日 内閣府政策統括官（経済社会システム担当）「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」によると、シニアの人々は、コロナ前と比べて「誰とも話さない」という 7.2% 増えています。人々の分断がさらに進んだ状況です。

【社会的に繋がる装置を】

同調査ではさらに、「今回の感染症拡大前に比べて、社会とのつながりの重要性に関する意識はどのように変化しましたか」という問いに「社会とのつながりの重要性をより意識するようになった」が 39.3% あり、「つながり」の重要性を認識する結果となっています。さらに、「今回の感染症の影響下において、新たに挑戦したり、取り組んだりしたことは

表 世帯数の推移

年	世帯数		1人暮らし世帯数		2人暮らし世帯数		3人以上世帯数		その他		世帯数不詳	総人口	世帯当たり人員
	(世帯)	(人)	(世帯)	(人)	(世帯)	(人)	(世帯)	(人)	(世帯)	(人)			
1980	19,098	18,802	10,716	1,587	923	1,565	633	6,521	37	259	72,324	3.79	
1985	20,005	19,960	11,059	1,944	1,180	2,154	807	6,747	45	0	74,356	3.72	
1990	20,489	20,424	11,240	2,403	1,297	2,556	1,060	6,628	39	29	73,319	3.58	
1995	21,459	21,425	11,890	3,219	1,849	3,155	1,359	6,390	34	0	72,900	3.40	
2000	23,089	23,051	12,799	4,174	2,327	4,429	1,717	5,924	34	4	73,051	3.16	
2005	23,721	23,643	13,348	5,003	2,705	4,844	1,990	5,451	50	28	71,851	3.03	
2010	24,344	24,274	13,501	5,606	2,963	5,839	2,412	4,934	70	0	69,541	2.86	
2015	24,474	24,398	13,724	6,383	3,307	6,402	2,818	4,272	76	0	66,782	2.73	

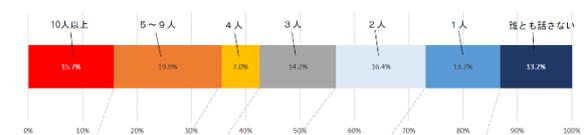


出典：総務省「国勢調査」

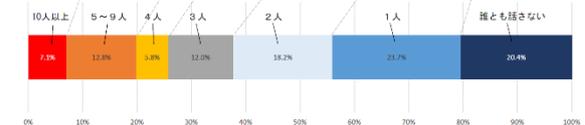
2. (シニア)人との交流

○シニアの、人との交流の機会が減少している。

質問 今回の新型コロナウイルス感染症拡大以前は、平均して1日の間に、同居する人以外に何人と話していましたか（対面、電話、ビデオ通話等を含む）。



質問 今回の感染症の影響下において、平均して1日の間に、同居する人以外に何人と話していますか（対面、電話、ビデオ通話等を含む）。



2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

ありますか。」という質問では、「今までやれなかった日常生活に関わること（家の修繕等）に新たに取組んだ」、「本格的な趣味（芸術、料理等）に新たに挑戦した」、「オンラインでの配信（youtube等）、オンラインでの交流（zoom等）に新たに挑戦した」というものでした。このことから、新たな学びや、楽しそうなこと、自分でやってみたいことが、新しい出会いの場になるのではないかと考えました。

【場づくり】

(1) 公共スペースを活用したい

人々が気軽に集まりやすいのは、公共空間であることが大切だと思います。それと街への回遊（歩く）ことを促し、いろんな気づきに触れてもらうことが重要だと考えました。玉名市で人の回遊性があるのは、JR玉名駅です。2018年度のJR九州駅別乗車人員上位300駅では、玉名駅は71位（熊本県内であれば6位）の乗車人数です。（JR九州ホームページ参照）この駅前スペースをうまく活用することが重要であると考えました。

(2) まち歩きは玉名市ならではのところで

まち歩きのきっかけは、玉名駅前で行うことにしましたが、具体的にまちあるきが楽しいところはどんなところなのかを考えてみると「玉名市景観計画」というのがありました。そこでは、玉名市らしい景観として、「広大な田園風景」と「市内を雄大に貫く菊池川」、「歴史の重みを感じる歴史的なまちなみ」というのが上がっていました。具体的に場所を選定していこうと考えています。

(3) 古民家を活用したい

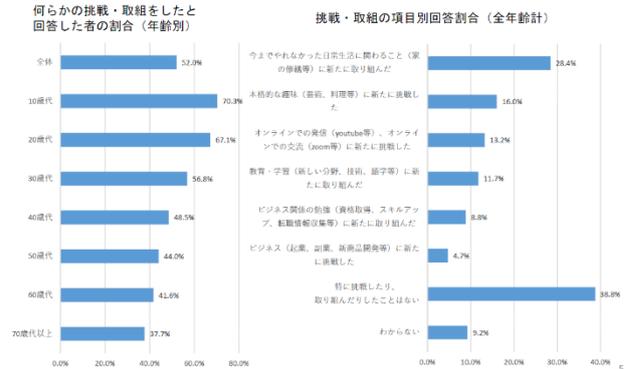
玉名市でも空き家が問題となっています。平成29年5月には、「玉名市空家対策計画」が出され、空き家の実態等がされています。私たちは、おばあちゃん家みたいな雰囲気、久しぶりに帰ってきたところで、サードプレイスを考えているため、古民家の再利用を考えています。

しかし古民家は、市中心部には少ないのが実情です。しかしながら、中心部外では、公共交通機関による移動が難しいのが難点となっています。

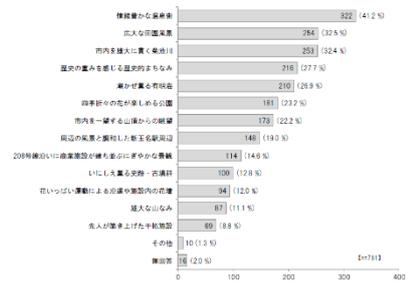
（参考データ：玉名市空家対策計画）

1. （共通）新しいことへのチャレンジ

質問 今回の感染症の影響下において、新たに挑戦したり、取り組んだりしたことはありますか。該当するものを全て選択してください。



■本市らしいと思う景観



2. アイデアの説明（公開）

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

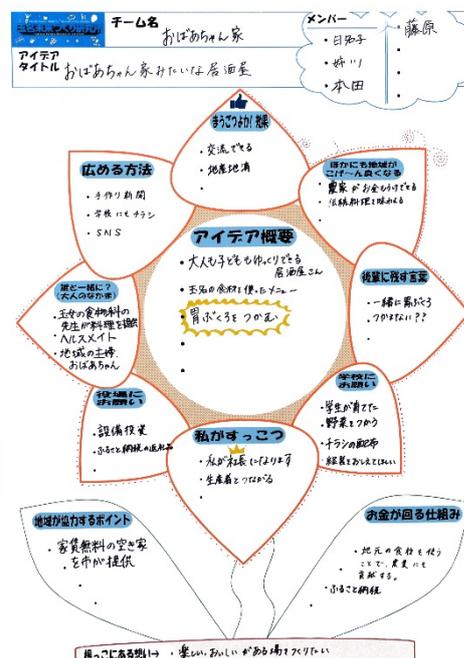
(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまづ＞

【玉名未来づくり研究所という装置】

今回のアイデアをまとまるきっかけとなった取組みは、玉名市が行った「玉名未来づくり研究所」という事業成果です。この研究所は 39 歳以下の若者が、「自分たちが住み続けたい・帰ってきたいと思える玉名を創る」を合言葉にし、地域づくり事業に参加したのがきっかけです。そこでは、同じ思いを持った人が集まり、その思いをカタチにしていけることが求められました。最初は知らない人ばかりなので、コミュニケーションがうまくいかなかったのですが、いろんな方と対話を続けていくうちに、次のような事業がまとまりました。



【提出したアイデア①：ひとをTUNAGU】

古民家再生サロンで、玉名の老若男女が集い、畑、手仕事（みそ、梅づくり、高瀬絞り、木や竹の加工品）などを加工し都会に販売する。体験、宿泊、食事、ネット販売を行う。

【提出したアイデア②：おばあちゃん家】

大人も子どももゆっくりできる居酒屋さん、玉名の食材を使ったメニュー。農家の副収入に繋がり、地産地消を目指す。地元の実業系高校のチカラで、様々な加工品を開発する。

【実現する主体】

提出したアイデアの中で、実現したいと思うメンバーが自主的に集まることになり、さらに自分たちのアイデアをさらに検討をし、順序立てることで今回の応募となりました。

【アイデア実現に向けて】

私たちのアイデアを実現するために重要な視点は、「まち歩き」を含んでいるところです。「何か楽しいことをやっている」という状況にすると、行ってみようかなあって思います。一つの団体だけでは実現が難しいのです。

そこで、いろんなプレイヤーを探しています。

【周知イベント① まちあるき ～楽しい公共空間づくり～】

市役所駐車場や、公共空間（駅前広場）などでメッセージ性のある開放的な空間づくりを行って、私たちの意図をわかってもらいイベントを行います。そのためには、公園や広場などを管轄する市役所と協働で、持続可能な公共空間づくりを行っていかうと考えています。

【周知イベント② まちあるき～オープンハウス～】

提案したオープンハウスは、本提案に興味を持ってくれた、一般社団法人古民家再生協会熊本支部がメインで行う事業に協力する形を取る予定です。（2月か3月に実施）同法人は、建築系の団体であり、古民家調査や遊休物件のコンサルティングを行う団体です。すでに玉名市大浜地区でオープンハウス構想をもっており、地域資源の新たな切り口を見せているところです。

【私たちのサードプレイスづくり】

計画は、農産物等を加工し都会で販売することを収益の柱にしようとしています。すでに、玉名市では6次産業化に取り組んでいる農家さんも多く、連携しながら実施していかうと考えています。また、市役所ではふるさと納税で、こうした特産物の販売を行っているので、自分たちがプロデュースした商品を販売することで、収益化を図っていきたいと考えています。

また、施設整備ですが、なかなかハードルが高いのが実情です。特に資金面が苦慮すると思われます。先に述べた（一社）古民家再生協会熊本や玉名市と連携しながら、最初はローコストで実施できればと考えています。

【仲間づくり】

まずはfacebookに「放課後地域創造クラブ」というグループを創りました。ここで、様々な人々に気軽に協力してもらえる接点づくりを行いました。

また、実際に声を届けてもらうために、市役所の玉名未来づくり研究所を主催した地域振興課に、本プロジェクトの説明を行い、私たちの活動のPR協力をしてもらうことにしました。

【資金づくり】

具体的な活動にするために、資金づくりをやっていかうと考えています。市役所に相談したところ、玉名市のふるさと納税でクラウドファンディングができることを知りました。このクラウドファンディングで実際に呼びかけをして行きたいと考えています。また、クラウドファンディングのお礼の品をつくるために協力していただける協力者の物を出していければと考えています。

【法人化】

私たちは、主婦や未成年などが参加する団体です。それぞれが、「できるだけ」で活動していくしかありません。そのためにも、法人化をすることで、物件を借りやすしたり、活動がしやすしたりするようお願いします。

秋のアイデア考案段階における課題提示自治体との連携状況について、以下の質問にお答えください。